

教育委員会事務局  
文化振興課

## 第39回 沼津市山口源新人賞が決定しました

直通 934-4812

### ■概要等

戦後の日本現代版画界を代表する一人で、本市ゆかりの版画家・山口源を顕彰する目的で設けられた「沼津市山口源新人賞」の第39回目の受賞者が決定しました。

### ■受賞者と作品について

氏名	五日市 諒子 (イツカイチ アサコ)
生年	1999年 (23歳)
住所/職業	神奈川県相模原市 / 学生 (多摩美術大学院)
作品名/発表年	「Chaos in Shibuya」 / 2022年
版種/大きさ	タテ   27.2cm×91.5cm / リトグラフ

※作品は別紙



### ■沼津市山口源新人賞

版画家 山口源の偉業を顕彰するとともに、市民の芸術文化の向上、発展に資するため、国内版画界において優れた業績を挙げた作家及び将来有望な作家の作品に対して「山口源賞」を制定し、授与しています。「新人賞」は、山口源自身も所属していた一般社団法人 日本版画協会に選考を依頼し、同協会主催の版画展への出品作品から、将来性の認められる 1 作品に対して毎年授与しています。(R3 年度までに 63 名、64 作品)

### ■山口源顕彰事業と山口源版画ワークショップ

沼津市で半生を過ごした版画家「山口源」の功績を広める目的で、日本版画協会展での「新人賞」の授与の他、「新人賞」受賞経験者を講師として、市内の高校や、若い世代の版画初心者を対象に、版画ワークショップを開催しています。(年内は、12月にららぽーと沼津にて開催予定)

#### ◇令和4年度の版画ワークショップ開催状況◇

- 水性木版画バレン摺り-ニ版でつくるイメージ- 講師:濱田路子(第32回新人賞)  
6/21(火)、6/28(火) 静岡県立沼津西高等学校 芸術科 美術専攻 1年生 13名
- はじめてのリトグラフ 講師:中村真理(第31回新人賞)  
9/17(土) 加藤学園暁秀中学校・高等学校 中学1年~高校1年生 16名(美術部中心)
- 銅版画・ドライポイント-様々な版の形、カラフルな銅版画制作- 講師:結城泰介(第25回新人賞)  
9/10(土) 参加者:一般公募 13名(版画初心者対象) 会場:ららぽーと沼津
- シルクスクリーン印刷@Sea 級グルメ全国大会プレイベント 講師:中村花絵(第33回新人賞)  
7/3(日) 参加者:20名(当日受付) 会場:沼津港第一市場

### ■山口源(1896-1976) 「令和8年に山口源は没後50年を迎えます」

戦後、日本の抽象木版画の先駆者の一人。

スイス・ルガノ国際版画ビエンナーレで「能役者」が日本人初のグランプリを受賞。

## 受賞作品 「 Chaos in Shibuya 」

タテ 127.2cm×91.5cm / リトグラフ / 発表年 2022



### 作品の由来とモチーフに対する思い

「あらゆる場所に潜在する混沌」をテーマに描いています。ちぐはぐなモチーフを敷き詰めることで、ある場所では戦争が起きていて、ある場所では食べ物に溢れている、ある場所では環境のためと言いながら、ある場所では生きるため汚水を流すなど、現代のちぐはぐさも表しています。そんな混沌さは社会だけでなく、個々人の内面にも潜在しており、相反する気持ちや感情、一貫しない思考や不安などは皆持っているものだと思います。

### 受賞のコメント

初めて公募展に出品をさせていただいたのですが、まさか賞をいただけるなんて感無量です。今までずっと手探りで描いてきて、自分の制作に自信がありませんでしたが、賞をいただいたことにより、自信に繋がりました。

### 第89回版画展 作品寸評 審査長 馬場 知子(一般社団法人 日本版画協会)

「Chaos in Shibuya」と題された作品は127.2×91.5cmの大作だが、サイズのインパクトだけでなく隅々まで描き込まれた画面はモチーフを読み解いていく楽しさがあった。

シンボリックな商業ビルや見覚えのある看板などで、そこがタイトルにある通り渋谷の街であることは一目瞭然である。ただし、その街の様子は異様だ。通りには人が溢れていて、コロナ禍の今では言語道断の「密」状態。

下界の喧騒に対して空もどんよりと曇り巨人の足が見える。救いをもたらすものか災いなのか。来るべきものなのか去るものなのか。世界的なパンデミック、ロシアのウクライナ侵攻、経済の悪化と明るいニュースがない今、この足は福音には思えない。きっと何かが起こってしまうのだろう。

浮世絵は「憂き世」が語源であるという(辛い現世だが儂いものなのだから楽しく暮らそうと「浮き世」と表記されるようになった)

「Chaos in Shibuya」は現代の浮世絵である。

「災いはやってくるだろう。でもなんとか乗り切れる」

画面の人々を見ているとなぜだかそう思えた。市井の人々の底力を信じられる。

私を元気づけてくれた作品である。